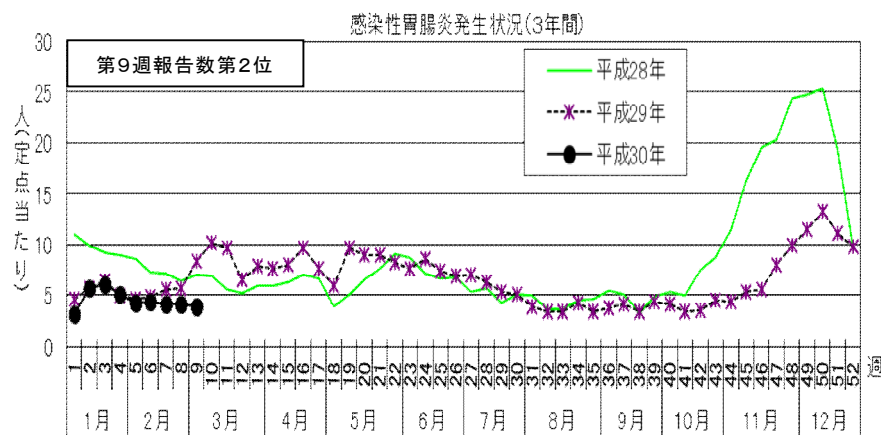
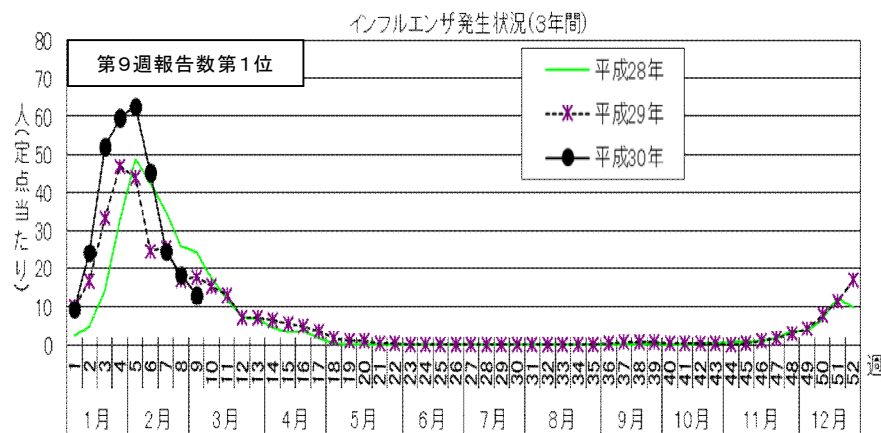


今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

平成30年2月26日（月）～平成30年3月4日（日）〔平成30年第9週〕の感染症発生状況

第9週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1)インフルエンザ 2)感染性胃腸炎 3)A群溶血性レンサ球菌咽頭炎でした。
インフルエンザの定点当たり患者報告数は13.13人と前週（18.46人）から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。
感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は3.92人と前週（4.19人）から横ばいで、例年より低いレベルで推移しています。
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は2.89人と前週（2.49人）から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。



全国でA型肝炎の報告数が増加しています！

平成30年2月以降、全国においてA型肝炎の報告が増加しており、第6週（平成30年2月5日～2月11日）から第8週（平成30年2月26日～3月4日）は3週間連続で週に10件を超える報告がみられ、計39件に上りました。男女別では、男性の割合が多くなっています。

A型肝炎は、一過性の急性肝炎で、成人では小児に比べ、症状の程度が強いことが多く、高齢者では重症化しやすいといわれています。

A型肝炎とは？

●感染経路

糞口感染

※患者糞便中のウイルスによって汚染された飲食物や人の手を介して感染します。また、性的接触により感染する場合があります。

●潜伏期間

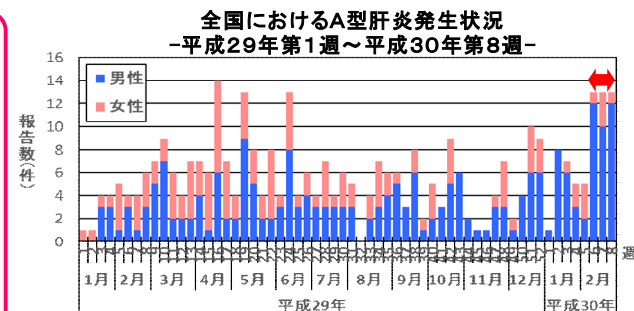
2～7週間（平均4週間）

●主な症状

発熱、全身倦怠感、食欲不振、黄疸、肝腫大、濃褐色尿など

●治療法

特異的な治療方法はなく、対症療法が中心



予防接種について

A型肝炎流行国への渡航前には予防接種が勧められています。通常、2～4週間の間隔で2回接種し、さらに初回接種後24週を経過した後に追加接種を行います。

また、海外渡航者以外にも魚介類を扱う調理従事者、医療従事者などに対する感染予防にも有効と考えられています。

